


 憧れのヴァイオリニスト ヴィエニャフスキ 徳田 和可
 

皆様、初めまして。新会員の徳田和可です。「徳」は、正しくは心の上に「一」が入る「徳」ですが、たまに表示・変換されなかつたりするので、どちらでも構いません。私自身もメールでは「徳」で打つこともあります。）

まずは、少し自己紹介をさせてください。



担当楽器はヴァイオリンで、4歳から習っています。同時にピアノも習っていて、小学生から高校生まで安藤むつみ先生に習っていました。ポーランド協会入会は、安藤先生に誘っていただいたことがきっかけです。札幌大谷大学の研究生を修了し、今は母校の藤女子中学・高等学校の音楽の非常勤講師、個人的にヴァイオリンの指導も行なっています。

記念演奏会ではヴィエニャフスキの「華麗なるポロネ

ーズ第一番」を演奏させていただきます。この曲について少し紹介させていただきます。

ヴィエニャフスキといえば、驚異的な技術をもつ名ヴァイオリニストということが浮かびます。それは、あの有名なパガニーニ並みと言われています。ヴィエニャフスキは、テクニックだけではなく、表現力も素晴らしかったと言われていて、ヴァイオリン弾きとしては大変憧れる作曲家・演奏家になります。ポーランドの風を感じながら精一杯演奏させていただきたいと思っています。

これからどうぞ宜しくお願い致します！（とくだ・わか）



 ポーランドの地に想いを馳せて 鈴木 飛鳥
 

この度、入会させていただいた鈴木飛鳥と申します。私は、ロシアのサンクトペテルブルクとモスクワに留学していましたが、いつかはポーランドの地を訪れてみたいと思いつつも、結局は実現することが出来なまま、帰国することになりました。

ピアノを弾く人にとって、ショパンは特別な作曲家であり、また、ショパンの祖国であるポーランドにも、憧れのような気持ちがあります。今回、こちらの協会に入会させて頂いたのを機に、ポーランドの文化に触れたいと思っています。そして、ショパン以外にも、以前からシマノフスキの作品などにも興味がありましたので、ぜひ取り組んでみたいと考えています。

6月にキラ小ホールで開催される創立35周年記念演奏会では、モシュコフスキ作曲の「ポーランド民族舞曲集 Op.55」から第3、4曲を連弾で演奏いたします。第3曲のポロネーズは、物悲しい旋律が印象的ですが、第4曲のクラコヴィアクは一転して、非常に軽快で楽しい作品になっています。

演奏会では、ポーランドの地に想いを馳せて、心を込めて弾きたいと思つています。ぜひ、皆さんにお聴き頂けたら嬉しいです。（すずき・あすか）



 憧れの英雄ポロネーズ 中島 幸治
 

この度、入会させていただきました中島幸治と申します。私はハンガリーへ留学しておりましたが、ポーランドのワルシャワへは、当時の留学仲間と一緒に一度だけ観光で行ったことがあります。

ワルシャワを訪れたのは約8年前になりますが、中でも印象に残っているのは、ショパンの心臓が眠る「聖十字架教会」を訪れ、ショパンの心臓が納められている柱の前で祈りをささげ、ショパンの祖国ポーランドへの思いを感じ胸が痛くなったことです。

市内の公園も散歩しましたが、ちょうど木枯らし舞う季節で北海道の景色と共通するところもあり

何だかホッとした記憶があります。

6月の記念演奏会では、ショパンのプレリュードと英雄ポロネーズの二曲を演奏させていただきます。英雄ポロネーズは、力強いリズムと優美なメロディーでショパンのポーランドへの愛国心が感じられる曲でとても大好きな曲です。

私が初めて英雄ポロネーズを聞いたのは「シャイン」という映画の中でした。あるピアニストの半生を描いた作品で、当時ピアノを習い始めた私にとってはとても衝撃的な映画でした。

憧れの英雄ポロネーズを初めてステージで演奏させていただけることに感謝しながら、聴いて下さる方の心に届くよう精一杯演奏させていただきます。

どうぞよろしくお願ひいたします。（なかじま・こうじ）

